市民参画グループ　第三期提言書について

玉井、向、岩澤、前田、戸島

1.　第二期の提言書の振り返り

1）来期への提言

①「まなびの日」、はぐくむ委員会のブース出展

②　子ども用パンフレット作成

③　サポーター交流会の開催

2）目的

㋐　はぐくむ条例の周知と理解、市民参画を身近に感じる

㋑　子どものころから協働や市民参画を意識し、世代に関わらず取り組める

㋒　身構えることなく第一歩を踏み出しやすくする

2. 第三期の提言書に向けて

1）第二期の提言内容の現状

①　まなびの日に向けてまだ動き出していないが、第二期の提言の通り、ブース出展を提案する

②　市民参画グループ内だけでなく、「子ども用パンフレット検討チーム」をつくり、案を出し合い内容や作成媒体など話し合いを重ね、作成中

③　開催しても次につながるものにならないと意味がない
参加、参画しやすいことから呼びかけ、条例や協働について知ってもらうのはどうか、というところから、「まなびの日」のブース出展の当日スタッフ募集をサポーターに呼びかけた

2）明らかになった課題について

・「まなびの日」の周知活動などにより、少しずつ「聞いたことがある」人が増えているが、子どもの認知度はまだまだ低い

・子どものころから協働の正しい知識を学ぶ機会や交流する場が必要である

・協働は「やらされている」や「面倒ごとを市民にさせているだけ」というイメージをなくし、協働の理解を深める取組みが不可欠

3）解決のための提案について

・子ども用パンフレットを作成したが、今後はどう活用していくのか、その時の状況に合わせて変更していく箇所はないか、継続的に取り組む

・子どものころから「協働」を意識して自分の描くまちづくりを目指せる取組みを続ける

・毎年、「まなびの日」の委員会ブース出展をし、条例周知の機会と協働の理解を深める場をつくる

・「まなびの日」のブース出展の活動にサポーターに呼びかけ、条例を身近に感じてもらうきっかけや協働の第一歩として次のステップにつなげる

・世代に関わらず協働や参画ができるよう、周知や議論、学習の場を工夫する

3．市民参画グループで検討すること

・子ども用パンフレットの活用方法（関わる課や教育委員会などとも相談）

・今後の子ども用パンフレットの見直し

・子ども用パンフレットの媒体を広げるかどうか

・サポーターに「まなびの日」の活動以外で協働の活動や交流する場の取組み

・世代に関わらず条例や協働を知り、理解を深めることのできる環境づくり